

何せ、幸せは、健康で記憶力が悪いことぞな。

祖母

私は記憶力が悪く暗記テストは最悪なのでいつも、嘆いていた。受験でも、案の定失敗して大泣きの毎日だった。或る日、祖母が自宅を訪れた時「あら、持って来るつもりやったのに又忘れて来たよ。年にはかなわん。」そう言って大笑いしながら私の頭を撫でてくれた。「よう忘れるけん、毎日が新鮮よ。何せ幸せは健康で記憶力が悪いことぞな。嫌な事すぐに忘れるけんね。」農作業で日に焼けた顔を皺くちやにして私の瞳に語りかけてくれた。ああ、後悔ばかりせず忘れて前に進めつて。そこには又違った幸せがある。八十歳を過ぎ、戦争の事、高度経済成長、バブル崩壊の中、何度か手術もしてサバイバルしてきた。ばあちゃんの血流れとるけん、うちも忘れるわい。

受賞にあたって

はじめて受けた中学受験で失敗し、落ち込んでいたときに、なかよしのおばあちゃんからこのことばを聞きました。それから、このことばに励まされ、「まだゴールじゃないんだ、次頑張ればいいんだ。」と思うことができました。そして、中学校に入学し、俳句の同好会に所属することになり、三年間、一生懸命活動してきました。来年からは高校生になります。高校生が出場対象である俳句の甲子園を見据えて、より頑張っていきたいです。